

知床は今 流水到来

例年、今ごろの時期は雪が多いが今冬は少ない。

2月6日、朝からうっすらと曇り空であったが業務のため知床に向かった。山の中も雪の量は少ない、朝夕の寒さだけは例年同様厳しい毎日である。

車中からオホーツク海を眺めたが、今年も流水がやってきた。接岸しているところや、接岸間近なところと様々であるが素晴らしい光景に出会った。



(知床半島に押し寄せた流水)

氷塊が岩に波とともに激しくぶつかり合い国道沿線近くまで波しぶきが上がる。オオワシが数十羽、流水の頂上で優雅に舞いオホーツク海の雄大さをあらためて感じさせられた。

青々としたオホーツク海も、流水に埋まる頃には一面がまっ白な氷原に変わる。



(オジロワシの幼鳥)



(冬到来とともに渡ってくるオオワシ)

しかし、毎年押し寄せてくる流水のおかげでプランクトンの発生により、流水下の生物にもたらす恩恵は計り知れないものがあります。

オジロワシも他の生物と同じように流水と関わりを持って生きていけると言えます。

更に車を走らせオシンコシンの滝近くになると、エゾシカが食物を求め国道沿線に群がって雪をかき分けている。エゾシカにとってもこれからが一番厳しい季節になるだろう。

約50分車を走らせ目的地のブユニ岬に到着、林内に入ると小動物等の足跡があらこちらに見られ、食物等を求め活動している。動物にとって、知床の森林は今が一番厳しい季節にあるが、森の生物たちは一日も早く雪解けを待ち望んでいるだろう。

(企画官 田畑)

★ ★ イベント等情報 ★ ★

3月 8日

「オホーツク森の案内友の会」冬山研修

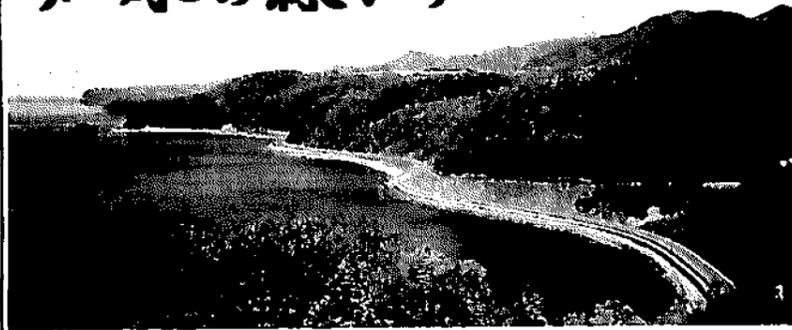
3月13日

第40回「森林レク in 知床」遠音別岳山麓
問い合わせ先

知床森林センター 01522-3-3009 まで

知床の森から

平成10年2月 第53号



キタキツネ(イヌ科)
森林と草地が入り交ったような開けた環境を好み開拓以来の農耕地の増加により数を増やしきています。
1~2月が結核(?)の時期となっています。

北見営林支局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
メールボックス siretoko@cocoa.ocn.ne.jp

親子でおもしろ木工 なごやかな雰囲気の中で

第18回「森とのふれあい」『親子でおもしろ木工』を、1月17日に知床森林センターセミナー室で、25名(小学生15名含む)が参加して実施しました。

今回の「森とのふれあい」は斜里町民を対象とした木工体験です。

工作は、あらかじめ用意した自然の素材(つる・小枝・小石・年輪プレート等)を使って、小動物等を作る自分だけの作品です。

参加者は、センター職員から材料の取り扱い方や作り方等の説明を受



(真剣に取り組む親子、難しいなー)



(机いっぱい広げて何ができあがるかな)

け、さっそく材料を選び工作造りに入りました。参加者の中には馴れた手つきの人や、思いどおりにいかに苦勞している人、難しい作品に挑戦し出来上がりに満足した人、また、子供より親の方が夢中になる人など様々でしたが、楽しそうな話し声や笑顔でセミナー室は終始なごやかな雰囲気に包まれました。

短い時間の中でしたが、思い思いの作品ができあがり、また、余った材料を持ち帰り家庭で工作してみたいとの声もあり好評でした。

知床半島におけるエゾシカの樹木食害

.....イチイの林木遺伝資源保存林で、調査区を設定.....

... 樹木食害の調査 ...

ここ数年におけるエゾシカの増加は、農業被害、林業被害、交通事故などの社会問題にまで発展しています。道が昨年12月にまとめた「道東地区エゾシカ保護管理計画」でも被害の深刻化を受け止め、適正な生息水準への誘導・維持の頭数管理を図ることが示されています。当センターとしては、これらの問題の中でも林業に携わる者として樹木食害に着目し、食害状況から被害傾向等を把握するため、知床半島（ウトロ地域）に調査区を設け調査を行ないました。

... 調査区と調査方法 ...

調査区は、イチイの林木遺伝資源保存林に設定されている箇所であり面積は7.65haです。調査は、食害木を全木調査し、特に食害の多かったオヒョウニレとイチイは食害の有無に関係なく全木調査を行いました。

調査方法は、固体別に、直径2cm括約、食害高は20cm単位、食害部位の程度、被害発生年、樹木の生・枯について把握を行いました。



(食害を受けたオヒョウニレ)



... 調査結果 ...

食害発生を地況・林況から見ると、南西面で冬期でも積雪量が少なく、針葉樹の割合が多く樹冠密度も大きな身を隠すことの出来る針広混交林で、近くに川が流れているなど、エゾシカが越冬することの条件が満たされている箇所食害が集中していました。

食害は、全樹種にわたっているが、特にイチイとオヒョウニレは食害木の8割を占めていました。

この調査区では、イチイとオヒョウニレに強い嗜好性が示され、その状況は直径階から見ると全樹種とも16cm以下の小径木に集中しているが、イチイとオヒョウニレについては直径階に関係なく食害を受けており50cm以上の大径木も見られるとともに、食害の高さも2m以上の木が見受けられ、食害部位も全周食害が多かったです。

エゾシカの樹木に対する嗜好については、各方面からの研究等により、食性の遺伝性や木材成分のリグニン量の問題などの嗜好性も考察されていますが、当センターとしても森林面積が多い北海道での対策の一環を探るため他機関等の意見も伺いながら、食害実態から見る状況把握と対策について考えていきたく、同調査区で更に調査を継続していくこととしています。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

きみ どこからきたの

本籍不明の植物たち

自ら移動の手段を持たない植物が、最適環境を選んでそこに定着するには、偶然性と試行のほかに、気の遠くなるような長い年月が必要であろう。

植物は自然界にあっては風・水・動物・鳥などを頼って分布を広げなければならない。完全にあなた任せである。

植物には自己生存のほかに種の保存という重要な仕事があり、そのためには分布を確かなものにしなければならない。そして移動や分布に力を貸したのは、膨大な時間の流れであった。

ところが近年は植物の分布の速度が早くなったように思う。人間の行動圏の拡大とその頻繁化である。道路という線の密度が濃くなるにつれ、次々と困ったことが起きてきた。ある植物の小群落を道路の沿線で見出す。植物に興味のある人がおおむね発見する機会が多く、彼ははたと首をかしげてしまうのである。

この植物は本来このものなのか、それとも道路建設のとき搬入された土と



(フタマタイチゲ、キンポウゲ科)

もに運ばれてきたものか、いくら調べても分からない。結果として、彼は判断に苦しむ。こういうケースはきっと多いと思う。しかし植物は彼の思案に関係なく花を咲かせ、彼はそれを見るため息をつくのである。(緑化第一係長 志村)

盛況だった交流大会

平成9年度北海道林業技術交流大会は1月26～28日、札幌市「かでる2・7」を会場に開催されました。

技術発表は27・28日の両日で、当センターからは「知床国有林におけるミズナラ堅果結実調査」を持って参加しました。26日は同会場ロビーで林業関係の写真展が開かれ、翌27日は発表会に先立ち、札幌国際大学藤谷栄也講師による「森とくらしを考える」講演があり好評でした。

発表部門は「地域活動」をはじめとする8部門で、5会場に分れて実施され、当センターは「造林」の部での発表となりました。

業務研究発表会

平成9年度の北見営林支局、業務研究発表会が2月12日に開催されました。

当センターからは稲川、大串が参加し「知床半島におけるエゾシカの樹木被害」について発表しました。

発表は特別発表を除く10課題がありましたが、昨年に引続き、日本林業技術協会理事長賞を受賞することができました。

今後も、知床半島を起点にこれらの調査研究を進めていきたいと思っております。発表の概要は別ページに掲載してあります。

